2008年(平成20年)

第9号

(9月15日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発 行 所:立正佼成会 京都教会 発行責任者:涉外部長 宮地啓安 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

# 脇祖を偲ぶ「脇祖さま報恩会」

9月10日、本部をはじめ全国の教会では「脇祖さま報恩会」が開催されました。

1957 (昭和32)年のこの日、本会創立より、 庭野開祖とともに布教伝道に取り組んだ長沼妙佼脇祖 は、67歳で遷化しました。この日は、脇祖が歩んだ 「慈悲の生涯」を振り返り、脇祖の足跡を偲び、法華 経行広宣流布の決意を新たにします。

長沼妙佼脇祖は、幼いころから、苦労の日々を送られてきました。6歳の時に母親を亡くし、伯父や年の離れた姉に育てられました。18歳の時に上京し、26歳で結婚が、夫の道楽が原因で結婚生活10年で離婚。ようやく授かった子どもも2歳で病死してしまいます。脇祖は、この悲運にめげず気丈に働き続け、41歳のときに再婚し、夏は氷屋、冬は焼き芋屋を営んでいました。

しかし、生来の病弱に無理がたたり、胃や心臓を悪くしてしまいます。また、子宮内膜炎を患い、医師から「もう長くはない」と宣告される状態でした。

そんな時、開祖との出会いがありました。病で床についていた脇祖の枕元で、先祖供養の大切さを教えられ、脇祖は、法華経の道を歩む決意をします。見違えるように元気になり、脇祖とともに霊友会会員として昼夜をわかたず布教活動に励むようになりました。

そして、本会創立と同時に、副会長として、会員をわが子のように慈しみ、食べ物や衣類などを惜しみなく分け与えました。会員の幸せを願って荒行にもうちこむ一方、法華経の教えのもと、厳しい指導にも徹しました。開祖の教えの「証明役」として、ただひたすら法華経のごとくに生きた生涯でした。

脇祖の遷化のとき、開祖はその死を『鳥の翼をもぎとられたような悲しみ』と表現しました。2001年、 庭野会長からおくられた法号は「脇祖妙佼慈道菩薩」。 本会の発展に大きく貢献し、会員たちの幸せのために 身を尽くした「慈悲の人」でした。

京都の会員たちは、脇祖の生涯にならい、「慈悲の心」を持てるように修行に取り組んでいます。

# 一食を捧げる運動~ジェン・スリランカプロジェクト

● 津波と内戦からの復興を祈って

スリランカは、長年にわたる内戦と、2004年末の「スマトラ沖大地震」の際に発生したインド洋津波で甚大な被害に遭いました。現在でも多くの人が困窮した生活を余儀なくされています。立正佼成会も加盟する特定非営利活動法人ジェン(JEN)では、被災した人々の経済的、心理的自立と生活再建に向け、さまざまなプロジェクトを現地で展開しています。

【現地の人の声】スダルニー・チャンドラクマリさん(12) 私は JENのみなさんがしてくれるスポーツの活動

を楽しんでいます。特にボール を使った遊びが好きです。私た ちの村にはお医者さんがいな いので、一生懸命勉強して、将 来はお医者さんになりたいと 考えています。

そして、世界には日本のみなさんのように一食を捧げる運動をして私たちを助けてくれた

刻

人がいることを忘れず、私もほかの人のために働きたいと思います。

秋断が大あ 極社 場 選裁 切だ。 風 て はの め、会 で 右 ておくこと 挙は  $\mathcal{O}$ で 変を 装を 変を 変を のが がは は は誰 B でしては、国民一 を 行 れか 消 往 を 当 考 0 な 福 え た にる ŧ 6 田 を 自人るの り 2 なの  $\mathcal{O}$ 地ゲ T 大  $\otimes$ カュ るか総理変 S 日か 。のとと本り で何度入

# 諸宗教対話のコーナー

# 宗教協力

前回までは庭野開祖の宗教協力にかける思いと、交 流のあった宗教者の話をさせて頂きましたが、今回か ら、現在京都教会で行なわれている宗教協力、筆者が 新宗連(新日本宗教連盟)で交流を行なった体験談を お話させて頂きます。今回は先日亀岡市で開催された 『明智光秀公・亀山城万霊慰霊祭』の参加報告です。

あり、亀岡発の世界平和実現を目指し発足した集まり です。主体となるのは大本教さんですが、亀岡市にあ る様々な宗教が垣根を越えて地域の平和から、世界平 和を祈る動きが活発化し結成されました。まず私は地 域市民が一体となって心と心を繋ぎ世界平和を目指す

その志に強く感銘を覚えます。社会生活をしていく上 で、家庭だけでは足りない何かを地域が一丸となって 子育てをしていく、宗教に根ざした思いやりの心を育 んでいくことは本当に大切だなと思います。前置が長 くなるのが私の癖ですが、明智光秀は本能寺の変にお いて、織田信長と言う時代のヒーローを殺害した悪者 になっている感がありますが、当時亀山城(今の亀岡 市) を拠点とした町造りと人心をとても大切にされた 亀岡市は地域に根ざした「かめおか宗教懇話会」が 城主であった、そして天皇家を大切にされ、傍若無人 (言い過ぎかも)を働く織田信長を生かしては置けな い光秀の行為を今、歴史を見直す動きが活発になって きているそうです。そのような動きの中で織田側・明 智側、敵味方の怨念を越えて萬霊慰霊祭が慣行されま

私のほのぼの日記 (京都佼成議員懇話会に参加いただいている議員さん方のコーナーです)

# 懐かしさ以上の『熱中時代』

京都府議会 熊谷 哲

「僕の先生はフィーバー!」というフレーズととも に、世の中に嵐を巻き起こした『熱中時代』。当時の「教 育ママ」的世相や、教育現場で起こるさまざまな困難 に体当たりでぶつかっていく熱中先生・北野広大の姿 が共感を呼び、空前のヒットとなりました。

あれから30年。当時を懐かしみ手にしたDVDを 見返すと、時代は移り社会環境も大きく変化したもの の、今日的な教育問は程度の差こそあれ、当時から既 に浮き彫りになっていたことに改めて気づかされる。

「昔は良かった」「昔は違った」と郷愁に絆されるの ではなく、昔も今も懸命に生きている子どもたちや保 護者、そして教職員のやる気を支え、心を結び、希望 を紡いでいくためにこそ頑張らなくてはいけない。

あの頃の私と同じ9歳になった愛娘と一緒に、熱中 して映像に見入りながら、思いを新たにする秋です。

# 議員は"先生"?

向日市議会 太田 秀明

議員がなぜ「先生」なのか。その呼称が社会との関 係を物語っているなら、誰かが(私が)是正しなけれ ばならないと思い、立候補そして当選させていただき ました。

「先生」には『からかいの呼び名の意味もある』と 広辞苑に記されています。

議員を先生と呼ばないようにしてほしいと申し上げ て30年がたちます。いまではごく普通に名前を呼ば れることで敬意を表していただいていることに感謝し ています。

議員の使命は、議会意思の形成に参画することであ り、先生と呼ばれる行為はありません。ただ、その意 思形成過程を見たときに、師事するに足る人物に対し て、思わず「先生」と呼びたくなることがあるとした ら、それは、『本物の先生』かもしれません。

#### 佼成会ミニ知識

# ご供養

法華経の経典を読誦することを「ご供養」と言って います。ご供養の際に読誦する経典は、釈尊の本懐経 である法華経を収めた『訓訳・妙法蓮華経并開結』(平 楽寺書店版)です。

妙法蓮華経二十八品と、開経といわれる無量義経、 結経といわれる仏説観普賢菩薩行法経の三部を一冊に ます。

けれども、四百ページをこえる部厚いお経は、とて も一度に読誦しきれませんから、ふだんのご供養では、 この『法華三部経』から要点を抜粋して編さんした「経 典」が使用されています。

仏さま、ご先祖さまの前で一心に法華経の尊い経文 を読誦させて頂くことによって、知らず知らずのうち 収めてあるので、一般的に「法華三部経」いわれてい に私たちの魂が浄められ、これまでの自分の姿がいか に未熟なものであったかに気づかされるのです。

# 企業経営と平和のコーナー

# 「仏教を仕事に生かす」

#### 《己を知る努力》

自己啓発の第一歩は、まず自分の現状を分析するこ とによって、己自身を知ることである。自分の持つ知 識、技能、技術、性格特徴などを棚卸してみよう。ま た興味、関心、職業生活や人生目標などについても、 はっきりさせておきたいものである。

自己分析のための各種チェックシートが開発されて いるので、それを活用するのもよいし、それらを参考 にしながら、自分に合ったものを作ってみるのもよい。 例をあげると次のとおり。

- 1. 人の話を傾聴し、理解できているか
- 2. 人の感情や気持ちを感じ取っているか
- 3. 自分の行動とその目的を自覚しているか
- 4. 人の行為を気持ちよく受け入れているか
- 5. 他人からの批判を進んで受けているか
- 6. 敵意から逃げずに、直視できているか
- 7. 他人に対する影響力を持っているか

#### 《自画像と防衛》

自己チェックで注意すべき点は、自分では「非常に よい」つもりでも、部下や同僚など他人から見ると評 価が異なるなど、自分の「つもり」と「はた目」との 間にズレが生じやすいことである。

人間は誰でもみんな、「自分とはこういう人間であ る」という自画像を持っている。そこには、うぬぼれ もあれば、ひけめもある。自分では「心が広く暖かい 人間」と思っている人が、他人から「あなたは冷たい 人間だ。私の気持ちを少しもわかってくれない」とい われると、「君の受け止め方が間違っている。君の考え 方は甘すぎるよ」と、他人の目に映っている自分の姿 を認めようとしない。

人間には、このような自己防衛的な心理的メカニズ ムが働くので、自画像(自分が見ている自分)には盲点 ができて、歪んだものになりやすい。これが人間の成 長を妨げている。

#### 《心の四つの窓》

自己防衛になる傾向を防ぎ、成長を目指すためには、 常に他人からの批判や助言を受け入れ、謙虚に耳を傾 ける習慣づけが大切である。自分と他人とのかかわり 合いの様子をわかりやすく説明したものに、「ジョハリ の窓」と呼ばれる考え方がある。それによると、人間 の心には、次のような四つの領域があるという。

#### 開いた窓

自分にも他人にもわかっていて、自然にのびのびと振 舞える領域

#### 隠した窓

自分ではわかっていても押し隠しているので、行動が 不自然になる領域

#### 盲目の窓

他人からは丸見えだが、自分は気付いていないので、 他人との間にズレやアツレキが生じやすい

自分にも他人にもわからない無意識の領域、未知の可 能性を秘めた成長の源泉

「開いた窓」を大きくし、「暗い窓」を小さくすること が自己洞察であり、成長である。そのためには、他人 の援助(見る眼)が必要である。

要するに「己を知る」とは、

- 1. 他人の話に耳を傾ける
- 2. 己の気持ちを率直に表現する

という努力を絶えず行うことである。そして、この努 力こそが自己啓発、すなわち自分自身としての成長の 原点なのである。

#### 《啓発目標の設定》

他人からの援助も含めて自己分析ができたら、これ から目指すべき方向について目標を設定する。

#### 《目標の内容例》

知識・技能の向上、行動改善、性格改造、職業生活 設計、人生目標の設定など、多岐にわたるが、身近な テーマとして、例えば、スピーチに上達する・会議の 指導法に上達する・報告書の作成法に上達する・他人 との面接法に上達する・バランスシートの見方など計 数感覚を磨く・問題解決法に上達する・他部門の業務 について勉強する、などの目標が決まったら、次には どのようにして目標に到達するのかの手段・方法を計 算し、それから後は PLAN-DO-SEE のサイクルに従 って、実践の努力を続けていくことになる。マネージ メントも、部下の意欲づけも、そして自己啓発も永遠 に続く努力の過程なのである。

※「仏教を仕事に生かす」は今回をもって終了させて 頂きます。ご愛読ありがとうございました。

次号からは「仏教を生活に生かす」を掲載予定です。 お楽しみに。

#### 庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

#### 《心の弓矢を捨てるために》

世界の宗教者が一つのテーブルについて、世界平和 のために「何ができるか」「何をしなければならない か」、まず、たがいに胸襟を開いて真剣に語りあわなけ ればならない。その思いは、いつも庭野開祖の胸中に あった。当初は漠然とした思いにすぎなかったが、そ れが、次第に世界宗教者平和会議(WCRP)という形に 固まってくるまでには、いろいろなことがあった。

ありがたい忠告もあったし、中傷もあった。「庭野の 描く世界会議の構想は、世界の宗教の現実と、それを 基底にした文化に無知だから抱ける夢にすぎない」と か、「世界を動かすのは政治というパワーであって、宗 教ではない。宗教者を集めたからといって世界が動く わけではない」と言われたこともあった。

面とむかって、「キリスト教といくら話し合っても、 結局のところ『あなたは異教を捨ててイエスのもとに 帰依すべきだ』としか相手は考えてないんですよ。ま してや、イスラム教の人たちをまじえて話し合うなん て、むちゃです」と忠告してくださる学者の方もおら れた。そうした声にも庭野開祖は謙虚に耳を傾けた。

「そもそも、人間はなぜ戦争をくり返すのだろうか。 『万人の万人に対する戦いこそ自然状態である』とは 英国の哲学者・政治思想家であるトーマス・ホッブズ という人の言葉だそうだが、彼はさらに『力と欺瞞(ぎ まん)は戦争における二つの重要な美徳である』とまで 言っている。ヘーゲル(ドイツの哲学者)もまた『国家間 の争いは、それぞれの国家の特殊意思が合意を見いだ さないかぎり、ただ戦争によってのみ解決される』と 記しているという。

人間の社会は、何もない平常のときがすでに戦争で あり、いざ戦端がひらかれれば、それは戦闘だという のが、一般的な考え方だったのかもしれない。あのプ ロイセンの軍事学者クラウゼウィッツの、『戦争とは通 常の政治とは異なった手段で行われる政治の継続にほ かならない』といった言葉も、よく知られている。

こうした言葉に代表されるように、かつて戦争は人 類にとってしごく当然のことであった。戦争に勝利す

れば、国家の財産は増え、十分にもとはとれると思わ れていた。しかし時代は変わり、核兵器が登場したい ま、いや、核兵器だけではなく通常兵器でさえも強力 な殺傷力を持つにいたった現在、もはや、戦争はどん な理由があるにせよ絶対に許されない罪悪であり、や ってはならぬものになった。

釈尊は、すでに二千五百年も前に『心のなかの弓矢 と刀を捨てよ』と説かれているが、人類の現状は、弓 矢どころか核兵器の開発に狂奔している。その現状を 目の前にしている私たちは、もはや『世界の宗教者に よる平和会議が、はたしてできるものだろうか』と考 える段階ではなく、**『どうしても、それを実現させなく てはならぬ**』と考えるべきではないのか。その決意が、 しだいに庭野開祖の使命になってきたのであった。

それに加えて、人びとに平安を与えるべき宗教が、 たがいに壁をもうけて反目しあっていたのでは、宗教 そのものが、社会からはもちろんのこと神仏らも見放 されてしまう、という危惧の念がいつもあった。『災い 転じて福となす』というが、核の誕生によって人類が 戦争の愚かさ、悲惨さを思い知り、平和の創造につい て真剣に考えるようになることができたとしたなら ば、それは大きな収穫といえるだろう。

それでなくては、広島と長崎で自らの身を焼いて核 の恐ろしさを世界に訴えた犠牲者の霊は浮かばれま い。いまだに世界のいたるところで紛争は絶えないが、 人類がこの地球上に誕生して百万年を経て、ようやく いま平和のほんとうの大切さ、必要さを痛感するにい たったといえるのではないだろうか。

二十一世紀になって、生きるために戦うことしか知 らなかった人間が、生きるためには協働しなくてはな らないのだと気づき、学習し始めたばかりなのだとい えないだろうか。そして、その学習の一つのあらわれ が世界宗教者平和会議なのであった」と庭野開祖は述 べている。そして、その庭野開祖の願いが現実のもの となって、宗教者がひとつのテーブルにつく時がつい に訪れたのである。 (つづく)

### 渉外部からのメッセージ

てきて秋を感じる季節になりました。現代人は昼間は 取っていける自分たちでありたいと思います。 エアコンの利いた部屋で仕事をし通勤は車や電車です と、季節の変化が感じにくい生活を送ってしまいがち です。気温の変化を肌で感じることはとても大事なこ

先月までの猛暑に比べ、めっきり朝晩が涼しくなっ とですね。暑い寒いと愚痴を言わず、ありがたく受け

この「平安月報」は下記アドレスからダウンロード できます。是非、ご覧下さい。

http://www.rkk-kinki.jp/kinki/thats\_kyoto.html